

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立赤穂特別支援学校

活動の実際（単元名）

（全日制）部活動、運動会
（定時制）体育、音楽、作業

指導目標

- ・同世代の人々と交流し、親睦を深めると共に、社会性を養う。
- ・生徒の主体的に活動しようという態度を養う。

生徒の実態

地域の中学校から、高校進学時に本校に入学してきた生徒が多い。学力面でなく、人間関係での辛い過去を抱えて不登校を繰り返してきた生徒もいる。交流に対して積極的になれない言動が見られる。認識の高い生徒は、特別支援学校に対して少し劣等感を感じているとともに、過去を思い出したくないという思いもある。

事前学習

特に過去への負の経験がある生徒に対して、事前に相手校の参加生徒の名前を伝え、話をじっくり聞く時間を大切にしたい。活動においては、日頃授業でやっている内容を同じように交流及び共同学習でもすることで、自信をもって参加することや、主体的に相手校生徒にやり方を伝えることのできるように配慮したい。

学習活動（具体的な取組）

- 6月20日（木）Aコース体育での交流
フラッグフットボール
- 1、あいさつ
 - 2、自己紹介
 - 3、かけあし
 - 4、ラジオ体操
 - 5、7ボール
 - 6、ボール運び鬼
 - 7、あいさつ

支援と留意点

- 1、両校向き合い大きな声であいさつすることで、緊張を解き、笑顔を引き出せるようにする。
- 2、名前を1対1で伝えあう時間を設けることで、直接相手を知ることができるようにする。
- 3、音楽を流し、楽しい雰囲気の中で走ることができるようにする。
- 5、分かりやすいルールで、一緒に体を動かすことで、自然と団結できるようにする。
- 6、チームで戦略を練り、自然と一喜一憂することのできる内容にする。
- 7、感想を伝え合い、楽しかった思い出を共に振り返ることができるように場面を設定する。

評価

6月20日（木）Aコース体育での交流

今年度最初の交流ということもあり、両生徒共に緊張した面持ちでのスタートとなった。7ボールやボール運び鬼という簡単な戦略とチームの連携が必要なゲームを行うことで、ハイタッチをし合ったり、「ナイス」などの声掛けが交わされたりと、自然と笑顔になることのできる雰囲気が出来上がっていた。活動に後ろ向きな生徒も共に楽しむ中で笑顔がこぼれ、笑い合う姿が見られた。

活動の様子



運動会での用具係を通しての取り組み。1対1のペアになっての用具の出し入れ。（全日制）



音楽の授業で、歌の「ポーズ」の歌詞で撮られた一枚。（定時制）

事後学習

赤穂高校の生徒の感想を読んだり、教師が伝えたりすることで、「楽しかった」や「悩んでいた」などの、活動の中では気づきにくい相手の内面を知ることができた。楽しかった活動を思い出すとともに、相手に対しての見方を変えるきっかけとなった。次回の活動につながり、少し戸惑っている赤高生に対して声をかけるなどの姿を見ることができた。

成果と課題

成果としては、交流及び共同学習の中で関わっていったことで、中学時代での人間関係のトラウマを、恐怖から「また会いたい」「次は何時なのか」と期待へ変えていく本校生徒の姿が見られた。街中で会った時には、名前を呼び合ったことなどを伝えるに来てくれるなど、同じ地域に住む友達として、少しではあるが関係を結びつけることができた。今後、よりよい活動にするために、両校の教師間でお互いの生徒の実態を共有しながらペア組を作るなど工夫して、さらに交流を深めていきたい。